

長畝ふるさと通信

【2016年5月号】

■ 田植え・田植え・また田植え

5月5日、28年産米の田植えが始まりました。先月17日の暴風で被害を受けた育苗ハウスの苗も何とか生き延びてくれました。酒米「五百万石」を皮切りに「こしいぶき」「コシヒカリ」「こがねもち」と順番に田植えをします。

早朝6時には田んぼへ出かけ、田んぼの水や苗の状況を確認し、7時から田植えのスタート。今年で3年目の8条田植機、通称「ハチ」に乗り込み、ただひたすら苗を植え付けていきます。



<1件しかない貴重な鯉のぼり>



- 一発肥料とは・・・以前は田植え前に「元肥」という初期生育の栄養補給のための肥料を散布し、その肥料が切れる7月中旬頃に追肥として「穂肥」を散布していました。しかし、真夏の肥料散布は重労働で高齢者にはとにかたく厳しい。そこで開発されたのが「元肥」と「穂肥」を田植え時に同時に散布できる「一発肥料」です。その仕組みはそれぞれの肥料に溶け出すタイミングをずらすコーティングを施すというもの。同時期に散布しても「穂肥」の成分だけは7月に溶け出して効果を発揮するというカラクリです。本来なら苗の成育状況を見ながら、適切なタイミングで適量の肥料を与えることが望ましいのですが、寄る年波には勝てません。重宝しております。
- 側条田植機とは・・・田植機に肥料の自動散布と除草剤の自動散布機能を付け、これまで別々に行っていた三つの作業を一度の行程でやっつけてしまう便利な田植機です。組合の4台の田植機は全て側条型になっており、一発肥料を使うことによって大幅な作業効率アップとなりました。あとは指示するだけで勝手に植える自動操縦田植機が開発されることを願うばかりです。・・・とにかたく田んぼに直にアシを入れる事がなくなりました。

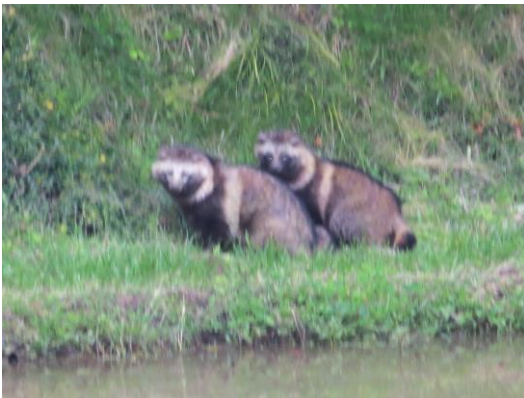
■ 5月の風景



毎年、この時期になると我が家の長屋にやってきて巣づくりをするツバメ。うまく巣づくりできず、途中断念する年が多いのですが、今年は立派な巣が完成し、どうやら現在卵をあたためている様子です。ぜひ、巣立って欲しいものです。

田植えを終えたばかりの田んぼに群れ

る白サギ集団。水面に自身を映し出し、「分身の術」。トキとはあまり仲がよろしくないようで・・・トキと違って警戒心が薄く、ふてぶてしい鳥です。



早朝の田んぼあぜ道でじっとこちらを覗うタヌキ（佐渡では「とんちぼ」といいます）のご夫婦。オタマジャクシなんかを食べにやってくるんですが、少々メタボ気味。

トキふれあいプラザという飼育観察施設にいるトキ。長いくちばしを突っ込みながら不器用にドジョウを探して食べます。こんなに近くでガラス越しにトキを観察できるのは日本中でここだけ。佐渡へ御来島の折りにはぜひ訪れて下さい。



■ 未来プロジェクトの旗の下に

JAが進める「佐渡米未来プロジェクト品質向上90」ののぼりが立ちました。全島100カ所に指定された展示圃場です。これから収穫までの間、地域の佐渡米栽培の指針として様々な指導会の模範的圃場として紹介されます。「90」は一等米比率90%以上目標の意味ですが、当然ながらボクたちは100%を目指します。

5月24日に全ての田植えが終了しました。田んぼにはたくさんの生きものたちが集い、活動を開始しています。今年も美味しいお米が出来ますように・・・

おかわりは自由です

